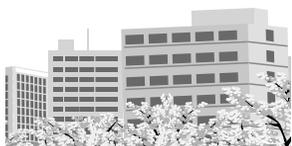


会員の広場



50回を超えた物申す会

深瀬 拓（東京）

物申す会は、回を重ねて50回を超えた。第1回が2009年6月26日だったので、第50回（2013年11月22日）で、5年近い年輪を経たことになる。

思えば、初回をスタートする前、事務局からアンケートが出され、会員の新たな交流の

場について意向調査がなされた。集計してみると、希望する項目の中で、映画、討論、歴史の点数が高かった。

そこで始まったのが、映画鑑賞会であり、物申す会だった。歴史研究会は第1回が参加者4名、第2回が3名で、静かに自然消滅。

映画鑑賞会はメニューに事務局の努力、工夫もこれあり、第85回アカデミー賞作品賞の『アルゴ』のような新作も上映されるなどして、人気が続いている。

物申す会については50回分の項目を並べてみると、取り上げてきたテーマが世間で話題沸騰する数年前に行われたものも多く、会員の間で議論、問題提起していた軌跡が読みとれる。たとえば、少子化や財政赤字、また非

核三原則、英語教育、TPP、原発、日本の安全保障、日本の株式市場、日中韓歴史認識

など多岐にわたった。第40回では古事記を取り上げ、文化の領域にも入り深く議論した。

50回も経てくると、会員同士の絆も自然と深くなる。泊りがけで議論を深めたいと希望する会員も現れた。

また春秋の季節の良い頃、年に2回ほど緑陰論争と銘打って、会議室から飛び出し、木陰で勉強会を開くことにしている。昨年は春に千鳥ヶ淵墓苑、秋には靖国神社に足を運んだ。帰途ささやかなミニ懇親会をもち、各会員の生まれ故郷など披瀝してもらった。

ミニ暑気払い、ミニ忘年会も毎年開き、会員同士の絆を大事にする会にしている。発言

は強制せず、自然体の物申す会を今後も大切にしていきたい。

振り返って長くも短くも感じつつ、50回を迎え、感無量というのは、ちとオーバーか。

一言でいえば、経済倶楽部の会員同士の絆を強めてきた50回であったように思う。議論する中でお互いの意思を確認し、心を通わせる同志になれたのではないか。

それにはそれなりの50回という時間が必要であったように思われる。歴史認識で、かなりやりあったことも昨日のように思い出される。世話人の一人として一筆啓上しました。

【訂正】本欄前号の筆者は中川敏洋氏でした。お詫びして訂正します。